

# 意見交換会概要

日時	平成25年 4月 19日（金） 19 : 30 ~ 21 : 00
場所	勝谷地区公民館
参加者数	約15人
出席者	校区審議室（神谷、小谷、清水）、竹内地域家庭教育係長、中川支所長、米田副支所長、佃主幹

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	学校の話は西部地域だけでなく、全体（鳥取市全域）での見直しなのか。本年度中に意見集約するのは耐震化問題が影響しているのか。ここ（西部地域）だけ結論を急いでいるのはそういうことか。
参加者 A	今年の春先、中学校の卒業式で統合の話を聞いてびっくりした。永遠に（中学校は）鹿野にあるもんだと思っていたので、残してほしいという気持ち。子どもが少なくなっているという現実はどうしようもないが、統合の前に校区の見直しをしてほしい。気高の「山宮」から上の地区、「宿」や「上光」からも鹿野中に通っていた。そういう見直しができないか。生徒数は確保できる。基本的には残してほしい。鳥取県がいくら小さくても隣の島根県や岡山県と一緒ににはなれない、それと同じことだ。
参加者 A	鹿野町がなくなることはないと同じく、子どもいなくなることはない。街づくりも頑張っているし子どもがいなくなるというような悲惨なことにはならない。
参加者 C	2月22日、鹿野小学校で話し合いがあったが、今日の話と最初の話ではイメージが違いすぎる。耐震の早期実施、耐震化に要する費用の説明をならべ統廃合ありきの説明会で、統合校のイメージ図も既に出来上がっていた。また、校区（の線引き）変更の余地もないという。「耐震化でも改築でも10億円ですがどうしますか？それなら統合すべきじゃないですか？」との会場の流れだった。小中一貫校についても全く提案もなく、統合も決定事項の様子。その統合案は10年後実施予定ということでPTAは胸をなでおろしたが、地域住民の理解は得られないということで今回の意見交換会になったとの認識だ。鹿野町から学校がなくなるのはおかしいし、子どももわざわざ遠くの学校に行きたいとは思えない、青谷の人も浜村まで通いたいという人はいないのではないかと。4月の市報の記事から鳥取市は小中一貫校について理解があると考えていたのだが、統合案とは矛盾も感じる。今、都会に出ている若者も学校のない町には帰ってこないし……。人口を増やす努力もするべきだ。
参加者 C	将来の学校のあり方、適正な学校規模というのが地域によって違ってくる。今も児童生徒は交流し、中学生が小さな子の面倒を見ている。将来、小中一貫校としてやっていける自信もある。学校を失うことは（地域の）核を失うこと、統合したらが市町村合併と同じで地域の特色を失うことは確か。校区の見直しをしてほしい。湖南学園のように生徒をひとつの建物に入れるのではなく、既存の2校舎を活用した「新たな形」ができないか。

## 意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	<p>3つの地域を一つにまとめることは難しい。気高、鹿野はありうる考え方だが青谷とは無理である。歴史的にみても一緒にまとめたことはなく、青谷は独特の文化を持っている。青谷の人も浜村に出てくる気はないのでは。そうなったら財政的に見ても3中学校を統合してこそメリットが生じる提案。青谷中、気高中の2校舎の改築費用するなら、鹿野が百歩譲って気高との統合し新校舎を建てても、2校舎作ることには変わらない。気高と鹿野の統合では財政的には何のメリットも生じないということ。すんなり、気高中と青谷中を改築したほうがいいのではないか。</p>
参加者 E	<p>小学校を統合したときの児童数は300人で、今はその半分となった。小学校の校舎を利用し小中一貫校とすればキャパシティを考えれば最適。また校区の考え方も緩やかに変更することも一案だと思う。バレーがしたいなら気高中、勉強がしたいなら付属中と、今でも選択しているのは確かで、校区についても昔のように考えることができれば生徒減の対策にもなる。西部地域を一つにするというのは暴挙。小、中、高通学でも現に交通の便が悪くて子どもの送り迎えを親がしているのに、統合となったら親の負担も増大するだろう。気高の小学校を減らし、鹿野に来ていただきたい気持ち。部活の面の問題は解消できないが。</p>
参加者 F	<p>最初、統合の話を聞いたとき、まず思ったことが浜村に学校となると交通、通学の面が心配。小学校の通学費も有料となったこともあり、家庭への負担が大きくなることは確かである。</p>
参加者 G	<p>今後の進め方についてだが、校区審議会の答申を受けて教育委員会が決定するというが、決定の際、地域の声は考慮しないのか。校区審議会の進め方次第で地域の声をもみ消すことも可能だろう。事務局の裁量で地元の声なぞ何とでもなるだろう。正直に住民の意見を反映するとは限らないし、行政側が信用してくれと言っても（これまでの流れから考えても）信用できない。</p>
参加者 A	<p>まちづくり協議会、PTA、地域審議会などいろいろ団体はあるが意見集約の仕方はどうなるのか。佐治、用瀬の統合の時は佐治の地域審議会から意見が挙がったというが、（鹿野では）地域審議会が地域の声の集約とはいえない。各団体の長が出てきても、団体の意見集約などはしておらず地域審議会でも個人的な意見に終始している。鹿野町の意見をまとめるように言われるが、意見集約の方法をどのように考えるのか。</p>
参加者 A	<p>統合の話を聞くが、青谷とは気質が違うので一緒にやること無理。青谷は違う国という認識。青谷の人だってそう思っていると思う。統合案は地域のことを知らなさすぎる。</p>
参加者 H	<p>校区問題とは別になるが、教育委員会の方針として「子どもを育てる」ことについてどのように考えているのか聞きたい。「ふるさとを思い 志をもつ子」とビジョンが語られているが全く具体的ではない。これからは日本語が通じない場面も数多くあるはずだが、どうしていこうとの案もない。抽象的なスローガンだけで具体的な目標が示されず、目指す子ども像があっても過程（教育方法）が語られないのでは、地域もわからない。地域にはどのような子どもを育てたいかとの投げかけはあるが、まずは教育委員会として教えてほしい。</p>